

千早赤阪村地域公共交通実証運行による生活環境の変化に関する研究

(株) 修成建設コンサルタント 西郷 佳菜

1. はじめに

日本では近年高齢化が進行しており、約4人に1人は高齢者という超高齢社会の時代である。高齢化による老化や体力の衰えなどの様々な障害により、移動が困難になっている人が増加している中で、高齢者のモビリティ、QOL(Quality of life)の低下が懸念されている。高齢者の移動手段の確保は通院や買い物などに不可欠であるとともに、外出頻度の増加やそれに伴う交流機会の創出など、QOLの向上に資するものである。そのため、高齢者が公共交通を利用することに対する支援は、高齢者の生きがいや社会参加の促進において重要な施策である。

大阪府南河内郡千早赤阪村でも、人口減少と高齢化が問題となっており、高齢化率は40.9%で、平成26年4月1日には、大阪府で初の過疎地域に認定された。鉄道駅はなく、路線バスは村内に5路線あるが、村の北部(森屋・水分)と西部(小吹台)の人口の集中している2つの地域は、それぞれ富田林市、河内長野市と結ばれており、2つの地域を結ぶ路線は存在しない。村内にタクシーの営業所はなく、村内の移動が困難となっている。

本研究では、公共交通施策が利用者のQOLの向上に与える影響を把握するため、普段の生活や他者とのコミュニケーションの回数、新たな知人の獲得の変化について考察することを目的としている。

2. 公共交通実証運行

平成27年9月1日から10月31日までの2か月間に行われた実証運行について、11月に住民アンケートが行われ、改善点が明らかになった。アンケート結果を基に千早赤阪村地域公共交通協議会が行われ、平成28年度においては、さらなる利便性の向上、利用者数の増加等を図るため、定時定路線方式とデマンド(予約)方式の同時実施による実証運行を行うことが決まった。実証運行概要を表-1に示す。

表-1 実証運行概要

実施期間	平成28年8月1日～11月30日(4ヶ月間)
運行日時	9:00～17:00 平日のみ(土日祝運休)
利用料金	無料
運行方法	定時定路線方式、デマンド(予約)方式
運行車両	ワゴン型車両 2台(運転手含み10人・8人乗り)

定路線方式は、村の西部(いきいきサロンやまゆり)～村の北部にある河南町の買い物施設(オークワ)を往復するルートであり、片道約30分の運行となっている。ダイヤは1

日8便、9時から1時間おきに出ており、最終便は16時となっている。

3. 運行実証結果

実証運行の結果を以下の表-2、表-3に示す。

表-2 定路線方式の利用者数

月	オークワ行き	やまゆり行き	日数	1便あたり
8月	214	212	22	2.42人
9月	173	173	20	2.16人
10月	216	203	20	2.61人
11月	231	212	20	2.76人
計	834	800	82	2.49人

表-3 デマンド方式の利用者数

月	利用者数	実働運行日	運行便数	1便あたり
8月	167	21	83	2.01人
9月	115	17	63	1.83人
10月	136	19	79	1.72人
11月	122	18	72	1.69人
計	540	75	297	1.82人

定路線方式の利用者の年齢層は75歳以上が43%と最も多く、65歳以上の高齢者の割合は86%であった。利用時間帯(利用便)は第2便が多く、第8便が最も少い。また、第1、2、3便だけで全体の半数以上であった。利用目的は買い物60%、公共施設23%であった。停留所間の利用状況は、「オークワ～いきいきサロンやまゆり」間が最も多く、次いで「いきいきサロンやまゆり～いきいきサロンくすのき」の利用となっている。

デマンド方式の利用者の年齢層は65歳以上の高齢者が65%であった。利用目的は通学・習い事52%であった。停留所間の利用状況は、「いきいきサロンやまゆり～福助食堂前」、「いきいきサロンくすのき～千早老人憩いの家」が多く利用されていた。

4. 調査概要

実証運行による生活環境の変化を明らかにするため、実証運行の前後でアンケート調査を行った。アンケート概要は表-4、表-5の通りである。

表-4 実証運行前アンケート

調査期間	実証運行開始前後(7月20日～8月15日)
調査対象	実証運行利用予定者
調査方法	施設・車内を通じて配布、回収
調査項目	個人属性、実証運行(H27年度)生活状況(健康状態、日常生活、外出等)
配布数	100部
回収数	82部

表-5 実証運行後アンケート

調査期間	実証運行終了前後(11月25日～12月10日)
調査対象	実証運行前アンケート回答者
調査方法	施設を通じて配布, 回収
調査項目	実証運行利用(H28年度), 生活状況(外出, 人との関わり)
配布数	82部
回収数	64部
有効回答数 (実証運行利用者)	22部

回収率は実証運行前アンケート 82%, 実証運行後アンケート 78%となった。

調査対象に関して, 社会福祉法人が行っているいきいきサロンへの運行サービスを一時停止し, 実証運行を実施するため, 利用者の多くがいきいきサロン登録者になると推測したが, 実証運行後のアンケートでは, 実際にバスを利用していた人は約 35%であった。

実証運行後アンケートの生活状況の項目に関して無回答の方は, 生活状況は変化なしとして集計する。また, 他者とのコミュニケーションとは, 直接会話をすることである。

5. 調査結果

表-6 個人属性 (n=82)

項目	内容		
性別	男性 17%	女性 82%	無回答 1%
年齢	64歳以下 2%	65～74歳 54%	75歳以上 42%
	無回答 2%		
免許	あり 66%	なし 32%	無回答 2%
普段の運転	する 56%	しない 33%	無回答 11%
路線バスの 利用頻度	週5日以上 0%	週3～4日 9%	週1～2日 6%
	月に数回 18%	年に数回 20%	利用しない 41%
	無回答 6%		

実証運行前アンケートの回答者の個人属性を表-6に示す。回答者の約 70%の人が免許を持っており, 普段から運転している人が多い。そのため, 実際にバスを利用した人が少なくなった。

表-7 利用者の調査結果(実証運行前アンケート)(n=22)

項目	内容		
性別	男性 9%	女性 86%	無回答 5%
年齢	64歳以下 4%	65～74歳 32%	75歳以上 59%
	無回答 5%		
免許	あり 27%	なし 68%	無回答 5%
外出頻度	毎日 14%	週3～4日 64%	週1～2日 18%
	月1～3日 4%	無回答 0%	
外出意向	増やしたい 9%	今のまま 86%	減らしたい 5%
他者とのコミュ ニケーション	毎日 86%	週4～5回 0%	週2～3回 4%
	週1回 5%	無回答 5%	

利用者の中の個人属性, 生活状況(実証運行前アンケート)を表-7に示す。利用者の約 90%が女性であり, 65歳以上である。約 70%の人が免許を所持しておらず, 公共交通や家族の送迎等で移動していることがわかる。外出頻度は週 3～4日 が 64%と最も多く, 週 3日以上の人の割合は 78%であった。外出頻度について, 今のままでよいと回答した人が 86%であることから, 現状に満足している人が多

いことがわかった。他者とのコミュニケーションについて, ほとんど毎日と回答した人が多かった。

実証運行後アンケートの結果より, 利用者の半数に外出頻度・他者とのコミュニケーション・知り合いの人数のいずれかには変化が見られた。

利用者の実証運行後アンケートの生活状況を表-8に示す。

表-8 生活状況(実証運行後アンケート)(n=22)

項目	内容		
外出頻度	増えた 32%	変わらない 63%	減った 5%
他者とのコミュ ニケーション	増えた 36%	変わらない 64%	減った 0%
知り合いの人数	増えた 27%	変わらない 73%	減った 0%

外出頻度が増えたと回答した 7人中 6人が, 実証運行前アンケートでは外出頻度は今のままでよいと回答していた。運行前に外出頻度を増やしたいと思っていない人でも, バス等が運行されることにより, 外出が増える可能性が示唆される。

他者とのコミュニケーションが増えたと回答した 8人中 7人は, 運行前に近所付き合いに対して, 親しく又はあいさつをする程度の付き合いをしたいと回答していた。普段から親しく付き合いをしたいという意向はコミュニケーションの回数に影響すると考えられる。

知り合いの人数が増えたと回答した人には, 共通した属性はなかったが, コミュニケーションの回数が増えていた。新たな関わりが増えたと回答した人の中には, 乗り合わせた他地域の人との交流という回答があった。

コミュニケーション・知り合いの人数が増えたと回答した 2人は, 運行前の外出頻度は少なく, 運行後も変化はなかった。外出頻度に関係なく, バスに乗ることにより知り合いが増えていることがわかった。

6. まとめ

実証運行を利用することで, 利用者の半数は生活環境に変化が見られた。外出頻度は, 現状の外出における満足度に関わらず, 外出頻度が増加している。村内の公共交通を満たすことは, 外出頻度の増加に繋がると考えられる。また, 外出頻度に変化がない人でも, 停留所や車内を通じて, コミュニケーション・知り合いの人数に変化が見られた。

従って, 公共交通施策による公共交通の導入は, QOLの向上に資するものであると考えられる。

参考文献

- 1) 安藤 晃太・木村 一裕・木村 雄・日野 智: バス運賃の低廉化による高齢者の移動の多様化と QOL への効果: 土木学会論文集 D3, Vol. 70, No. 5, I_579-I_578, 2014